

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3071300630
法人名	社会福祉法人 愛光園
事業所名	愛光園 第2グループホーム
訪問調査日	平成22年2月26日
評価確定日	平成22年3月23日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号

3071300630

法人名

社会福祉法人 愛光園

事業所名

愛光園 第2グループホーム

所在地

和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野1386番地
(電 話) 0736 - 22 - 3010

評価機関名

特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

所在地

和歌山市四番丁52ハラダビル2F

訪問調査日

平成22年2月26日

評価確定日

平成22年3月23日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員	18人
職員数	15 人	常勤 15人, 非常勤 0 人, 常勤換算 15 人	

(2)建物概要

建物構造	耐火構造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食 円 夕食 円 または1日当たり 780 円	昼食 円 おやつ 円	

(4)利用者の概要(平成22年 1月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低 72 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	上田内科 上田神経科クリニック かつらぎ町歯科医師会
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれ、近くには、スーパーや自治会館があり、社会的な交流ができる環境にある。ホーム内は民家風作りで、共有スペースもゆったりと快適に生活しやすいスペースが確保されており、換気や湿度にも配慮されている。入居者が自然なかたちで調理や洗濯たたみなどの家事に自発的に参加できるよう見守られていて、入居者のペースでその人らしく過ごせるよう取り組まれ支援されている。同法人では2つめのグループホームであり、同じ敷地内には通所介護サービスが併設されており、近くに位置する特別養護老人ホームとも連携がとれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目	前回の外部評価で取り組みを期待していた数項目について、ほとんど改善課題としての取り組みの成果は見られなかった。運営推進会議の頻度については前回の年1回から今年2回の開催となっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価はそれぞれのユニットの管理者によって記入されたが、両ユニットとも前回の自己評価表とほとんど同じ内容になっている。作成された自己評価は全職員が目を通している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	同法人が運営するもう一つのグループホームと合同で、この1年間に2回の会議が持たれた。そのうち1回は町の役場福祉課が月に1回開いている地域ケア会議を町内のグループホームが担当する形で行われた。会議の内容はホームの報告事項が中心となっているが、地域の関係者が参加して意見を出し合う良い機会となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目	家族の訪問時に入居者の様子を伝えるとともに、家族から意見、苦情がある時もその時に、聞くことが多い。出された苦情や意見には迅速に対応し、サービスに反映できるように努めている。家族会など家族が意見を表すことが出来る場は特に設けられておらず、意見箱は設置しているが殆ど利用されていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の催しに参加し交流に努力しているが、インフルエンザ対策で外出を控えて不参加を余儀なくされている。現在は外出による地域住民との交流機会が少なくなっているが、アニマルセラピーなどボランティアの訪問でカバーできるよう支援している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人と人とのふれあいと地域でのその人らしい暮らしへの支援に重きを置いて、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の見やすいところに掲示し、管理者と職員は自分たちの理念の実践に向けて、日常のケアの場面で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催しに参加して交流に努力しているが、インフルエンザ感染予防のために長期間外出を控え、不参加を余儀なくされている。現在は外出による地域住民との交流機会が少なくなっているが、ボランティアの訪問等でカバーできるよう支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成した後、全職員で確認しているが職員からの意見はあまりなく、内容も前回と殆ど変化がない。外部評価に関しても職員が共通の認識が持てるように周知されているが、具体的な改善は講じられていない。	○	職員各自が日々の業務を振り返るよい機会と受けとめて活用できるように取り組んでほしい。自己評価の実施は、各職員が記入して話し合い、管理者がまとめることで、職員各自の状況や知識の向上等の課題も見えてくると思われる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年2回開催されているが、報告が中心であり話し合いが十分なされているとはいえず、サービスに反映出来るよう活用されているとはいえない。	○	報告中心の会議では成果はあまり期待できず、この会議を積極的にどのように活かすかを考え、ホームの課題について、メンバーの知恵、意見、助言を求めサービス向上に結びつける事が出来るような取り組みが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉課が開催する月1回の地域ケア会議に参加し、関係者との連携を保つように努め、質の向上に向けて刺激を受けている。	○	現場のニーズ、地域福祉の有り様について現場の職員から行政側にも良い刺激を与えるような関係作りが望まれる。何かを期待するのではなく、何ができるかの視点をもちそこからの良い連携に期待する。
4.理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の入居者についての健康状態等定期的な報告はできていないが、家族の来訪時、それぞれの利用者の様子を知らせるようにしている。グループホーム便りは法人の2ホーム合同で年4回発行して開催された行事での入居者の様子などを写真を交えて知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、運営適正化委員会のパンフレットを置いている。家族の訪問時に意見を聞くようにしてケアに反映させるよう努めているが、家族会など家族が意見を表すことが出来る場は特に設けられていない。	○	気軽に何でも聞いてもらえる、話せる関係作りに努めるとともに、家族参加の行事の際に意見を話し合える場を設けるなど、家族会の開催についても検討が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員の異動は利用者へのダメージがないように配慮され最小限にとどめている。なじみの職員の退職には不安にならないように、新しい職員には早くなじめるようなかわりに配慮している。		
5.人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフトの関係で参加できない職員もいるが、施設内の研修は別々のテーマで月2回実施して介護福祉士の資格取得も奨励している。必要な外部研修は業務扱いとしており、年2回の法人全体の研修にも参加できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスケアネット和歌山(旧グループホーム連絡協議会)の研修に参加し、交流の場としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院先の病院からの入居や、同一法人の他のサービスを経由して入居に至る場合はほとんど混乱なく馴染めている。居宅からの場合は環境の変化に戸惑わないように入居前にできるだけ見学に来てもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族と過ごすように職員と入居者が自然な形で話し、一緒に生活を楽しむことができています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちに寄り添ったケアを心がけ、本人の状態の把握に努めている。入居者の情報はセンター方式を取り入れて職員間で共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から希望を聞くとともに、職員と話し合い、それぞれの入居者の力を引き出して、できる力は維持して生活できるようなケアプランを作成するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは半年に1度行っているが、事情によってはその都度、見直しを共有してケアに活かすようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内には通所施設が併設されており、近くに位置する特別養護老人ホームとも行事等の連携がとれている。特養内に併設の愛光園グループホームと共に、町の地域密着型サービスとしての役割を担っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者個々のかかりつけ医の受診は家族が行っている。施設の連携医療機関から2週間に1度の訪問診療を受けることができ、必要時に入居者の相談にも応じてもらっている。病院等の診察の支援が必要な場合、柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期、重度化の対応について指針をまとめ、家族に説明している。また月1度の職員の会合時にも話し合い、共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけないように言葉遣いにも気をつけている。居室ごとに部屋の手前のスペースにトイレが設置されていて、排泄時の介助もさりげなく行われている。利用者の個人記録の保管にも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴のおおよその時間は決められているが、状況に合わせて本人のペースで生活することができるように見守り、趣味や希望を大切にして支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士による献立を基本にして、調理は利用者と職員が一緒に行っている。できた食事は職員も一緒になって楽しい語らいの中で食べている。食後は皆で後片付けをしている。入居者との食材の買い物はインフルエンザ対策のため現在は中止している。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の2時間半の時間の中で4人と5人に分けて隔日に入浴できるようにしている。基本の入浴日は決まっているが状況にあわせて柔軟に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴を理解し、趣味を楽しめるように配慮している。書道や塗り絵、畑仕事等、好きなこと、得意なことが出来るように支援している。食事の準備や片付け等も自発的に加わるよう個々の意欲を引き出せるよう取り組まれている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、自治会館での地域の催し等、日常的に外出する機会を設けていたが、インフルエンザの流行から長期間外出を控えている。また、法人の方針で外食は禁止されている。	○	外出は、入居者の楽しみであるばかりでなく、認知症ケアに必要な五感への刺激となり、地域との交流も期待できる。外出の機会を積極的に増やし、また外食の禁止については、何故問題なのか問題点の解決について検討し、外食実施が行われることを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全の確保を理由に、出入口は常時鍵がかけられている。鍵をかけないケアの実践が果たされておらず、戸外に自由に出ることはできない。	○	自由に外に出られない生活は不自然であり、心理的な圧迫感も与え、人権が守られているとはいえない。建物の立地条件や現在の入居者の状況ならば、職員の見守りで、安易に鍵に頼ることなく、心配な点をどのようにクリアするか考えて取り組んでほしい。
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民の支援体制は未だできていないが、年2回は消防署の協力で夜間も想定した火災の避難訓練を行って備えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士と連携し栄養バランスに配慮している。食事量が少なかった場合は記録して把握している。水分摂取量についても全員の記録はないが、制約のある人にはペットボトルで管理し、ケース記録につけている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りに季節感を感じさせるものを展示していて、落ち着いた和風の造り、使いやすいオープンキッチンは認知症の人の生活の質を高める環境に配慮された設計となっている。テレビ等の音環境に配慮がなされており、光環境もよく、換気や湿度にも配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具、仏壇、写真等も持ってきて、自分の部屋らしくされている。部屋にはトイレ、クローゼット、加湿器まで設置され、居室から外の景色を見ることができる環境にある。		